

みやぎ・せんだい協働教育基盤による  
地域高度人材の育成

平成 29(2017)年度 外部評価報告書

平成 30(2018)年 9 月

外部評価委員会

## 平成 29 (2017) 年度事業に対する外部評価 実施概要

### 外部評価の目的

文部科学省が実施する COC+の趣旨及び申請計画に基づき事業を遂行するにあたり、着実な事業の進捗を図るため、毎年度、「自己点検・評価」を行い、加えて「外部評価」を実施する。

まず、「自己点検・評価」は、地域協働教育推進機構会議、機構運営会議及び部会ごとに当初（申請書上及び当該年度）の目標値及び進捗状況に関する事実を確認し、その結果、どのような成果（良否問わず）が生じたのかを点検・評価した上で、今後の取組方策を主観的に改善するものとなる。

一方、「外部評価」は、本事業の取り組みについて、事業協働機関ではない方々から、地域が求めている取り組み内容になっているかどうか客観的に評価を行っていただくものとなる。

これらの「自己点検・評価」及び「外部評価」で指摘された各事項については、以降の取り組みに反映させていくこととし、より地域から求められる事業となることを目指すものである。加えて、評価結果を公表することによって、本事業の取り組みについて文部科学省をはじめ、広く社会に対する説明責任を果たすことも目的として挙げられる。

### 実施方法

COC+で実施する平成 29 (2017) 年度事業に対する「外部評価」は、自己点検・評価を含めた「中間報告書」による「書面評価」の他、外部評価委員会時における質疑応答による「面接評価」とする。

なお、「外部評価」においては、これら「書面評価」及び「面接評価」を行った後、指摘事項をまとめた外部評価報告書を作成し、広く社会に対して公開する。

### 実施日時・場所

- ・実施日時：平成 30 (2018) 年 6 月 22 日（金）11 時 00 分から 12 時 23 分
- ・実施場所：東北学院大学土樋キャンパスホーイ記念館（2 階）会議室

### 外部評価委員

所属機関	所属部署	職名	氏名
宮城大学	食産業学群	教授	郷 古 雅 春
東北経済産業局	産業人材政策室	室長	佐 藤 賀 一
宮城労働局	職業安定課	課長	大 浦 一 浩

## 平成 29 (2017) 年度事業に対する外部評価 委員講評

### 事業全体に関する総評

**大浦委員：**県内の有効求人倍率が平成 24 年 4 月以降 73 か月連続で 1 倍を超え、直近の数値では 1.73 倍と統計開始以降で過去最高となっている。人手不足企業に対する人材確保対策と併せて、企業においても優秀な人材を確保するためには、長時間労働の是正など働き方改革の実践が求められる。

このような状況下において、本事業は地域全体で新たな人材を育成しつつ、企業の魅力向上を図り、地元企業への就職・定着を目指すことで地域経済全体へ波及させるという意義のある取組みである。

今後は、定めた各数値目標（インターンシップ参加者数、雇用創出数等）に対する実績の着実な向上を期待したい。

**郷古委員：**事業の進捗と実態に合わせて各部会を合同開催とするなど、横方向の連携を強化して教育カリキュラムの構築・実施の改善を図っていることは評価できる。定量的事業目標の指標が全ての項目で実績が下回っており、その分析と対策が必要であるが、一方で、教育の質の確保の視点からは、適正な履修者数という視点も重要であるため、そのバランスの検討が必要と考える。

多数の大学や機関が参加した取組のため、補助事業完了後の継続性も見据えながら、何を各構成大学の具体的なアウトプットとしていくのかを早めに検討していく必要があると考える。

**佐藤委員：**事業は「順調に実施されている」と評価する。

部会の数が多いのが特徴であり、またネックでもあると考える。部会間を連携する体制は構築されているため、引き続き、その体制が実効的になるよう取り組んでいただきたい。

教育は、教える側・学ぶ側の成長とともに常に変化（進化）していかなければならないものだと思う。実践と検証を積み重ねながら、特に学ぶ側（学生）にとって効果的なプログラムになることを期待している。

## 教育カリキュラムの構築・実施に関する講評

**大浦委員：**学生に対する授業アンケートにより授業内容を修正したこと、学生に対する働きかけを強化したことは良い。

体系的に構想され開設された「地域の課題Ⅰ」から「地域の課題Ⅱ」への移行者、更には「地域課題演習」への移行者を増やす努力が必要である。

**郷古委員：**文部科学省の中間評価にもあるとおり、定量的事業目標の実績が全ての項目で指標を下回っており、その分析と対策が必要と考える。一方で、教育の質を保証するためには、適正な履修者数の規模も重要な視点であるため、検討をお願いしたい。地域高度人材指標について、さらに下位指標を作成していくとのことであるが、併せて、地域高度人材指標をもとに全科目に共通するコモンルーブリックのようなものを作成できれば、育成すべき人材像と評価との関連がより明確になると考える。

**佐藤委員：**COC+参加大学等向けの単位互換コア科目の進捗について若干の遅れが見られるものの、他は計画通り実施されている。

開発したプログラムへの履修登録者数が少ない点も平成30年度以降改善されるようであるが、引き続き、履修生を確保し、実際に履修した学生の声を元に検証していただきたい。

## キャリア支援の実施に関する講評

**郷古委員：**「地元中小企業情報発信事業」の取組は、学生の地元企業への意識を高める上でも評価できる。この取組への参加希望学生が増えているとのことであるため、キャリア支援に係るアクティブラーニングとしてもさらに充実していくべきだと考える。

補助期間終了後、COC+の取組の成果を受けて関係大学の共同によるキャリア支援を継続して行うための仕組みについて、今後検討が必要と考える。

**佐藤委員：**シンポジウムやセミナーに参加した学生からの回答をみても順調に実施されていると思う。特に教育機関が連携して実施したことにより学生の満足度に繋がった点は評価できる。

## FD/SD の取り組みに関する講評

**大浦委員：**連携教育機関の教職員に対する本事業の理解促進・認識共有のための研修、COC+コーディネーターの能力向上を図る研修が適切に実施されており、各教育機関における標準化に期待する。

**郷古委員：**関係大学において、事業理解促進のための研修が行われており、地域コーディネーター養成研修やシンポジウムも実施されるなど、計画的に FD/SD が行われていることは評価できる。その際の参加者アンケート等に基づき、さらなる内容の改善・充実を期待する。

補助期間終了後においても、大学、自治体、企業の枠組みにとらわれない形態で FD/SD を実施できる体制の構築を目指すとのことであるが、その実現のためのセンター機能をどうするのかなど、具体的な検討が必要と考える。

**佐藤委員：**研修参加者の数は伸びており、引き続き、改善しながら取り組んでいただきたい。

## 情報発信、自己点検・評価、外部評価の取り組みに関する講評

**大浦委員：**本事業における地域全体に対する広がり、認知度を高める工夫に期待したい。

**郷古委員：**学生の履修者数が計画どおりに伸びないことについては、各大学の全体カリキュラムとも関係しており、当局の思惑通りに学生が行動しないことも考えられる。全体的に指標の数値目標を下回っている状況のため、教育の質の保証に留意しつつ、学生の参加を促すような魅力的なプログラム内容や情報発信が必要と考える。

以 上